

ものづくり 日本大賞	国土技術 開発賞	建設技術 審査証明 ※

2014.04.22現在

技術 名称	OPEN現場「緊急時警報共有システム」		事後評価未実施技術	登録 No.	HK-120035-A
事前審査	活用効果調査	事後評価		技術の位置付け(有用な新技術)	
		試行実証評価	活用効果評価	推奨 技術	準推奨 技術
				活用促進 技術	設計比較 対象技術
					少実績 優良技術
	有			有用な新技術の適用期間、評価情報等	

上記※印の情報と以下の情報は申請者の申請に基づき掲載しております。申請情報の最終更新年月日：2014.04.22

副 題	有線、無線LAN、docomoデータ通信回線、IPSTAR衛星回線を利用して、遠隔地に設置した監視機「本体」の監視データをWebサーバーに収集するシステムとその装置。	区分	システム
分類1	電気通信設備 - 電子応用設備 - 管理用カメラ、センサー設備 - センサー		
分類2	電気通信設備 - 電子応用設備 - 管理用カメラ、センサー設備 - カメラ		
分類3	環境対策工 - 騒音防止対策工		
分類4	共通工 - 情報化施工		
分類5	ITS関連技術 - 安全運転の支援		

概要

①何について何をやる技術なのか？

建設現場に設置した各種監視システム「A:気象センサー・緊急警報システム、B:振動・騒音遠隔監視システム、C:Webカメラシステム(自然災害監視・盗難監視)」で施工現場の安全対策、環境対策、災害、盗難防止対策に活用できる。

OPEN現場「緊急時警報システム」とは

A:気象センサー・緊急警報システム

- 「風向、風速計」:風向き、突風、風速、平均風速を
- ・「雨量計」:積算雨量の監視。
- ・「気温、湿度計」:外気温、湿潤で熱中指数を監視。

B:振動・騒音遠隔監視システム

- ・振動と騒音の数値をリアルタイムに監視して環境に配慮して工事を進める。

C:Webカメラシステム(自然災害監視・盗難監視)

- ・Web監視カメラで自然災害等の監視。
- ・Web監視赤外線暗視カメラで仮設物等の盗難監視(画像は、3秒～60秒間隔で記録)
- ・水中カメラROVで(水中の構造物、ケーソン、河川、ダム等の堆積)状況をダイバー監視なしで設置出来る。
- ・気象センサー、緊急警報監視システムと連動して24時間の監視と安全対策に活用できる。
- ・「超音波水位計」河川、水路、ため池等の:水位上昇、冬季の積雪を監視。

【各種共通機能】

- ・施工場所に監視用BOX「本体」を設置。
- ・現場事務所に監視用「子機」又は「PC」で監視。
- ・クレーン等の運転席にタブレット「PC」で監視数値を共有。
- ・監視設定値を超えると、アラートメール、パトランプ、警報音で知らせる。
- ・監視したデータはリアルタイムにWEBサーバへ保存
- ・監視データは何時でもダウンロードして安全対策に活用できる。

【通信環境】

- ・インターネット環境のある通信可能なエリアであること。